

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(豊里中学校)

平均正答率

※自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

| | 国語 | 数学 | 理科 |
|-----|-----|-------|-------|
| 豊里中 | 68% | 45% | 47% |
| 埼玉県 | 70% | 52% | 49% |
| 全国 | 69% | 51.4% | 49.3% |

生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

| | 質問事項 | 豊里中 | 埼玉県 | 全国 |
|--------|--|------|------|------|
| 生活習慣 | 朝食を毎日食べている | 95.0 | 92.2 | 91.9 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に寝ている | 82.5 | 80.6 | 79.9 |
| | 毎日、同じくらいの時刻に起きている | 92.5 | 91.7 | 92.2 |
| | 新聞を読んでいる(週に1回程度以上) | 12.5 | 7.9 | 9.4 |
| 学習習慣 | 家で、自分で計画を立てて勉強をしている | 57.5 | 60.3 | 58.5 |
| | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる | 87.5 | 78.4 | 74.7 |
| | 昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた | 85.0 | 83.3 | 79.2 |
| | 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む) | 40.0 | 42.4 | 35.2 |
| 教科への関心 | 国語の勉強は好きだ | 65.0 | 61.2 | 61.9 |
| | 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | 97.5 | 90.6 | 89.7 |
| | 数学の勉強は好きだ | 62.5 | 56.8 | 58.1 |
| | 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | 75.0 | 74.8 | 76.5 |
| | 理科の勉強は好きだ | 70.0 | 64.8 | 66.4 |
| | 理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う | 55.0 | 62.5 | 61.5 |
| ICTの活用 | 昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した | 20.0 | 51.1 | 50.9 |
| | 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した | 10.0 | 37.2 | 37.2 |
| | 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した | 7.5 | 14.9 | 17.8 |
| | 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した | 10.0 | 12.7 | 15.0 |
| | 平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている | 15.0 | 19.5 | 17.7 |
| その他 | 自分には、よいところがあると思う | 80.0 | 81.2 | 78.5 |
| | 将来の夢や目標をもっている | 72.5 | 68.9 | 67.3 |
| | 人の役に立つ人間になりたいと思う | 92.5 | 95.0 | 95.0 |
| | 今住んでいる地域の行事に参加している | 60.0 | 36.3 | 40.0 |

【質問紙分析】

- ・「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が県や全国と比較して高い。
- ・地域の行事に参加している生徒の割合が県や全国と比較して高い。
- ・生徒はICTに有用感をもっている一方で、授業でICTを使う場面が少ない。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 漢字の正答率が高かった。
- 根拠を明確にして書く項目の、問題の正答率が高かった。
- 書くこと、読むことに関する正答率が高かった。
- 話し方の工夫をとらえる項目の正答率が極端に低かった。
- 記述式の正答率が低かった。
- 言葉の特徴や使い方に関する項目の正答率が低かった。

【数学】

- 長文の問題に対して、根気強く解答することができていた。
- 三角形の合同条件のことばを答えることができていた。
- 証明の結論が慣れていないこともあり、記述できていない。
- 数学的な用語を使って説明（記述）することができていない。
- 箱ひげ図から、資料を分析することができていない。
- 「 $2 \cdot 3 \cdot 7$ 」という解答など、素因数分解が積の形で分解したことの理解が不十分な生徒が数名いた。
- 連立方程式では、加減法の形で提示されていない分、正答率が下がっていることが予想される。
- 対応表から変化の割合を読み取ることができていない。「変化の割合」が理解できていない可能性が高い。

【理科】

- 全体的に無解答が少なかった。
- 対照実験に必要な条件制御が理解できていた。
- 小学校、中学校両方で押さえ直した内容については定着できていた。
- 実験が伴った学習内容の問題について、正答率が高かった。
- 岩石の種類についての基本的な知識が定着していない。
- 継続的に記録した空のようすを撮影した画像と百葉箱のデータを天気図に関連付けて分析し、特徴的な天気の変化を解釈できるかどうかを見る。
- 地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと路頭のスケッチを関連付けて地層の傾きを分析して解釈できない。
- 観察実験において、予想や仮説と異なる結果が出た場合の、その意味と改善策が考えられない。

【国語】

- ・ ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認めたりする活動を取り入れるなど、話し合いの方法や伝え方について指導を充実させる。
- ・ 言葉の特徴や構成、使い方を授業の中でも随時使用して考えさせることを意図していく。
- ・ 記述式については、授業でももちろんだが定期テストなどでも回数を扱えるようにしていく。

【数学】

- ・ 実生活の場面と数学の学習を結び付けるような課題をさらに開発できるようにする。
- ・ 関数領域の表、グラフ、式の関連付けをする指導を各学年の関数領域の中で継続していく。
- ・ 基礎・基本的な計算処理が全員に身に付けられるよう、繰り返し指導をしていく。

【理科】

- ・ 観察実験の際に、深く考察ができるようにすることや、自分の考えを正確に表現できるように、グループの話し合いやレポートの作成などの機会を多く設ける中で適切な助言と指導をしていく。
- ・ 引き続き、基礎基本的な知識の定着を目指す指導の工夫をしていきながら、理解度に応じて応用的な内容にもさらに取り組んでいく。
- ・ 観察実験が難しい課題について、理解を助ける教具教材の工夫をしていく。

【その他】

- ・ 授業の中で ICT が効果的に使える場面で使えるよう、校内研修の体制を整える。同時に、生徒の情報モラル教育の充実を図る。